

令和6年度 学校経営計画書

「社会に貢献し、未来を切り拓く人間を育てる」を教育目標とし、「鍛えよう若き日を」のスローガンのもと、次のスクール・ミッション、スクール・ポリシーを掲げる。

1 スクール・ミッション

中東遠地区の理数科を併置する伝統校として、主体性・協働性・創造性・自己有用感を醸成する先進的な教育活動を通して、社会に貢献し未来を切り拓く人材の育成を目指す。

2 スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
本校生徒に育成したい資質・能力として、次の4点を定める。 【主体性】 ・解決困難なことにも怯まず、失敗をしてもそれを生かして、挑戦しようとする ・自分を律するとともに、周囲に流されることなく自ら考え、考えたことを表現したり行動に移したりできる ・物事を自分ごととして真剣に受け止めることができる 【協働性】 ・様々な考えの人と力を合わせ、集団のよりよい方向を目指そうとする ・人を大切に思う優しい心を持ち、人の役に立とうと自分の力を発揮する ・人とのコミュニケーション（あいさつ等）を図り、人から学ぶことで考えを深めようとする 【創造性】 ・習得した知識や技能を活用して、課題を発見し、その解決に向けて価値を創造しようとリーダーシップを発揮する ・視野を広げ、自己革新を続けようとする ・未来志向をもちながら、現在の凡事を徹底しようとする 【自己有用感】 ・自分には、自分の良さを認めてくれる人や場があると思う ・自分は、自分の力を発揮して人や社会の役に立つことができると思う ・自分は、向上し続ける人間だと思う	・授業を中心に据えた主体的な学びと高い学力を育成するための学び ・ICTの積極的な活用とアクティブ・ラーニングの導入等により、4つの資質・能力を育成する授業を通した学び ・高いところごしを育むため、計画的・体系的に行われる進路指導による学び ・「有徳の人」づくりを意識した、思いやりと自主自立の精神を育成するための学び ・地域、大学等との連携のもと、4つの資質・能力を育成する探究活動を通した学び ・豊かな感性を養い、健やかな心身を鍛える学び ・4つの資質・能力を育成するためのカリキュラムマネジメントの実施による学び ・安心・安全な学校生活のための保健指導、安全指導による学び	・日々の学習に向上心を持って真剣に取り組む生徒 ・地域の課題を自分のこととして捉え、主体的、協働的に学ぼうとする意欲のある生徒 ・部活動や生徒会活動、学校行事等に積極的に取り組み、仲間と協力して、より良い学校生活を送るために努力することができる生徒 ・自分の意見をしっかりと持ち、表現するとともに、相手の気持ちを尊重し、コミュニケーションを図ることができる生徒 ・高いところごしを持ち、将来、自分の力を発揮して社会に貢献しようとする生徒

3 スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 授業を中心に据えた主体的な学びと高い学力の育成
- イ 高いところごしを育む計画的・体系的な進路指導の推進
- ウ 「有徳の人」づくりを意識した、思いやりと自主自立の精神の育成
- エ 豊かな感性を養い、健やかな心身を鍛える
- オ 4つの資質・能力を育成するカリキュラムマネジメントの実施
- カ 安心安全な学校生活のための保健指導、安全指導の徹底
- キ 学校の実践と成果を積極的に発信
- ク 教員の資質向上を図る研修の推進
- ケ 情報処理システム活用と情報管理
- コ 学習環境の整備と円滑な事務業務の執行
- サ 教職員のワークライフ・バランス

4 本年度の取組

(□囲みは各学年の重点項目、○囲みは各教科の重点項目である)

(C Tは、本校の総合的な探究の時間クリエイティブタイムの略である)

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当
ア	授業を中心に据えた主体的な学びと高い学力の育成	① 教員、生徒とも「授業がしっかりわかる」、「授業で力を付ける」の意識のもと、大学進学に足る学力を育成する。 ② 「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツール（ベネッセ模試、GTEC）を用い、各学年の教科・科目ごとに結果分析を行い、学力形成の現状把握・共有を図り、指導の検証・改善を行う。 ③ 教科内及び教科間の連携を密にした上で、授業とのつながりのある家庭学習課題を設定し、生徒が着実に実行するよう指導する。 4 午後7時20分完全下校を奨励し、学習を中心とした生活リズムを確立させる。 ⑤ ICTの活用とアクティブラーニング（以下「AL」と略記）の導入等により、主体性・協働性・創造性・自己有用感を育成する授業を実践する。 ⑥ 授業ごと、定期テストごと、学期当初・末、学年当初・末において、目標設定と振り返りをする機会をつくり、生徒の主体的な学びを促進する（学びのポートフォリオ）。 ⑦ 観点別評価の円滑な実施と検証に努める。	A 授業アンケート2回の実施と「授業がよくわかる」生徒50%以上。「授業で力がついた実感がとてもある」生徒40%以上 B 大学入学共通テストの全教科・科目の校内平均点が全国平均点の1割増し以上になる C 測定ツールを通して把握した分析結果・共有内容に基づき指導改善に取り組んだ教員75%以上 D 1・2年生は、平日午後9時までに家庭学習を開始し、2時間以上、休日4時間以上の学習。 部活動引退後の3年生は、平日4時間以上、休日8時間以上の学習 E 部活動終了時間の遵守と帰宅指導の徹底 F 計画的に本格的AL型授業を実施した教員85%以上	教務 進路 教務 生徒 研修 教務 教務
イ	高いところを育む計画的・体系的な進路指導の推進	① 自分の力を発揮して社会に貢献する進路目標を設定させる。 ② 大学及び産業界と連携し、様々な学問・職業領域に触れさせ、知的好奇心を喚起する。併せて進路希望・家庭学習時間・生活実態の各調査を生徒の指導に有効活用する。 ③ 模擬試験を学習のペースメーカーとするとともに、徹底活用する（問題の分析、弱点の把握・克服、得点傾向など）。 4 C Tを含む学校教育活動を通したキャリア教育（進路意識育成）の方策について確立する。 5 2年生におけるC Tのテーマに柔軟性を持たせ、進路と関連付けた探究活動についての研究を行う。	A 1年終了時の国立大学希望9割程度 B 2年志望理由書の作成で9割以上の生徒が進路目標を明確化 C 大学入学共通テスト5・6教科7科目型の受験割合90%以上 D 教務、研修、進路課が連携してC T、LHR等を改善し、進路とC T、LHRのつながりを持たせる。	進路 進路 進路 進路 教務 研修
ウ	「有徳の人」づくりを意識した、思いやりと自主自立の精神の育成	① C T、学校行事、部活動、生徒会活動等を通し、生徒の主体的・協働的活動を促し、自己有用感を育成する。 2 教科、C T、特別活動において主権者意識を高める。 ③ 地域社会や大学との連携のもと、現実の課題の解決のために構築したモデルの検証を行う形のR P D C A型の探究学習を創出し、4つの資質・能力を育成する3年間のC Tプログラムの検証と改善を行う。 4 挨拶、身だしなみ、品位のある態度の育成のため生徒会・生活委員の活動の充実を図る。 ⑤ 学校内、学校外でのスマホの使用を自律的にコントロールできるように生徒・保護者に対する働きかけを充実させるとともに、情報モラルを育成する。 ⑥ 生徒が主体的に過ごし、落ち着いた気持ちで始業時刻を	A 部活動ボランティア活動参加率100% B 開催方法等を工夫し、充実した文化祭を実施する C 探究発表会で50%のグループが提案の検証結果まで報告する D 学校内外で生徒自ら挨拶ができるよう部活動やクラス等で促す E 1年全生徒にスマホに関する調査・分析・講座を実施する F 家庭学習の妨げになるよう	研修 生徒 教務 研修 生徒 生徒 生徒

		迎えるよう、「射懸」の時間の定着を図る。 7 各種コンクール・コンテスト・研究発表等への参加を積極的に勧め、主体性・創造性を育む。	なスマホの使用をしていない と答える生徒 90%以上	生徒 研修
エ	豊かな感性を養い、 健やかな心身を鍛える	1 部活動への積極的参加を促すとともに、地域社会との接点を持ち、社会貢献への意欲を育てる。 2 「冀北講演会」「芸術鑑賞会」を充実させる。 3 読書を通じて視野を広げ、深い教養と知識、豊かな感性が身に付くよう選書の機会を設け、読書活動の充実と環境整備を図る。 ④ あらゆる教育活動を通して、自他共に人を大切にする心（人権意識）を育む。	A 地域の要請に応え、イベント参加や地域団体との連携を行う B 「冀北講演会」85%以上「芸術鑑賞会」90%以上の生徒満足度 C 年間貸出冊数の平均を昨年度よりも高める D SHRや学年集会等の機会に人権意識を育む働きかけを行う	生徒 総務 図書 生徒
オ	4つの資質・能力を育成する カリキュラムマネジメントの実施	1 カリキュラムマネジメントによる統一的で計画的な学校教育活動を実現し、サイエンス・ハイスクールとしての本校の教育活動の一層の充実を図る。 ② 分掌・学年・教科及び主な学校行事における4つの資質・能力育成計画を作成し、生徒・保護者と共有する。 ③ 生徒の良さに着目した全職員による生徒への声掛けを行い、自己有用感を醸成する。 4 4つの資質・能力育成の実現状況を評価するアンケート調査を継続し、さらなる改善につなげる。	A 職員研修会5回（情報セキュリティ、BYOD、探究、カリマネ、防災） B 年間2回の生徒、教師対象アンケートを実施し、資質・能力育成の検証を行う体制を確立する	研修 教務 生徒 管理職
カ	安心安全な学校生活のための保健指導、安全指導の徹底	1 「保健だより」の定期的発行や薬学講座・健康講座を通して健康安全意識を高める。 2 各種健康診断の事後措置を迅速に行うとともに、精神面でのケアが必要な生徒、アレルギー等により注意を要する生徒に対して個別にきめ細かな指導を行う。 3 ごみの持ち帰りの徹底と清掃活動や安全指導により校内の美化を推進する。 ④ 悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し支援していくため、アンケートを実施したり1年生全員に面談をしたり、関係職員と連携してスクールカウンセラーの効果的活用を図る。 5 マニュアルに対応した効果的な校内防災訓練を実施するとともに、地域防災訓練・防災活動への参加率を高める。 6 スマホ・ネットの適切な使用方法と交通安全に関する意識を高め、安心・安全な教育環境を整える。	A 「薬学講座」「健康教育講座」において、しっかり理解した生徒 90%以上 B 職員間で情報を共有し、問題の早期発見と早期対応をする。 C 地域防災訓練への1・2年生参加率 60%以上 D 生徒による交通安全の呼びかけを学期に1回以上行う E 家庭学習の妨げになるようなスマホの使用をしていないと答える生徒 90%以上（再掲）	保健 保健 保健 教育 相談 総務 生徒
キ	学校の実践と成果を積極的に発信	1 学校HPやSNSの効果的活用、学校説明会、掛西公式NOTE、オープンスクール、中学校訪問等により、本校の教育方針や活動実績等の広報を充実する。 2 「掛西ラボ」を効果的に開催し、本校に魅力を感じる体験を小・中学生に提供する。 3 サイエンス・ハイスクールとしての活動（理数科行事等）の積極的発信を推進する。	A 部署ごとに定めたHP担当を中心に更新し、昨年度以上の記事更新数を目指す B 高校入試志願倍率 1.1 倍以上 C 掛西ラボ参加者 40 人以上	管理職 研修 事務 理数科 理数科
ク	教員の資質能力の向上を図る研修の推進	1 県総合教育センター主催研修、校外研修、講習会等への積極的な参加と参加した研修等の情報を教員間で共有する。 ② 校内授業公開と授業参観により、授業力の向上と改善に努める。 3 職員会議等で声掛けやミニ研修を行い、不祥事根絶を図	A 各教員の他教員授業参観年間3回以上 B 職員の不祥事や重大ミスを0にする	研修 研修 管理職

		る。 4 教職員の心身の健康管理に向けた研修を行う。		保健
ケ	情報処理システム活用と情報管理	1 ICTを活用した教育活動の一層の充実及び教職員の情報セキュリティ意識の向上を図る。 2 iPadの授業での効果的活用について研究するとともに、使用ルール等の必要な検討を継続して行い、校内体制を整える。	A 個人情報漏洩等の情報事故 0 B ICT活用が「できる」「ややできる」と答える教員 80%以上 C 情報セキュリティ研修の実施	教務 研修生徒
コ	学習環境の整備と円滑な事務業務の執行	1 校内施設・設備の安全を図り、適切な管理・保全に努める。 2 校内の学習・生活環境の実態を正しく把握し、情報共有を図ることで効率的・効果的な予算執行を行う。	A 校内施設・設備の安全を図っている教職員 90%以上 B 効果的な予算請求をしている教職員 85%以上	事務 事務
サ	教職員のワークライフ・バランス	1 会議資料のデータ化等、効率的に諸会議を実施する。 2 定時退勤日（月曜）は、学校全体で心がけて実施する。 3 部活動の指導時間について、心身の健康面を考え、部活動ガイドラインを守ることを徹底する。 4 時間外等在校時間の管理を行う。 5 部活動の再編について検討する。 6 ICTを活用した効率的な業務を推進する。 7 チーム学校による専門性を活かして役割分担を見直す。	A 教職員は、遅くとも平日 20 時までには帰宅する B 時間外等在校時間が前年度同月と比べて減少する。 C 公式大会等がない限り、週当たり平日 1 日以上、土・日 1 日以上部活動休養日を遵守する D 行政職員の専門性を活かし、学校教育活動に積極的に関わるような新たな業務にチャレンジする	管理職 管理職生徒 管理職生徒 研修事務